

介護保険料の負担感の決定要因

－便益、リスク、社会連帯の認知の影響－

岸田研作、谷垣静子

【目的】 介護保険料の水準を決定する市町村にとって、被保険者の保険料の負担感は大きな関心事である。しかし、保険料の負担感と個人属性の関係についてはほとんど分析されていない。本稿の目的は、介護保険の便益、要介護リスク、社会連帯の認知が保険料の負担感に与える影響を測定することである。

【方法】 対象は、米子市に在住する要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者である。分析は、現在の介護保険料を「高い」と思うか否かを従属変数、介護保険の便益、要介護リスク、社会連帯の認知を説明変数に含むプロビットモデルで行った。社会連帯の認知が、保険料の負担感に及ぼす影響が所得階層によって異なる可能性を考慮して、社会連帯の認知は、所得階層を示すダミー変数との交差項として投入した。

【結果と考察】 介護保険の便益を高く評価する者や要介護のリスクを高く評価する者は、保険料の負担感が低かった。これは、被保険者が、保険料を給付の対価であることを認識していることを意味する。高所得層では、社会連帯の意識が高い者の保険料の負担感が低かった。それに対して、低所得層では、社会連帯の意識が高い者の保険料の負担感が高かった。これは、社会連帯の意識が高い被保険者は、被保険者間の再分配を肯定することを反映していると考えられる。